

底で夕食をとり、しばらくすると船は揺れ出した。皆な寝ころんだり、雑誌を読んだり、歌声をはりあげたり、トランプをしたり・・・

いつのまにか寝ていた者も起き出して、十時五〇分、船は函館港につき、夢にまで描いた憧れの北海道の土を踏んだのである。港からバスで二〇分、今夜の宿である湯の川温泉に着いた。

函館から釧路へ

7月20日

大食三回生

湯の川温泉で一夜をあかした一行は9時30分北海道の海の玄関口である函館市内の見学のためバスに乗りこんだ。醜い座席争いをさけるため、大食3乗車のバスは席の順番を決め、座席とりに夢中になつている2台のバスをしりめにゆうゆうと乗車する。さすが大食3の貫録十分である。

最初の訪問地は沈黙・労働・祈禱の生活をおくるトラピスト修道院。ガイドさんの説明より修女の生活を想像しながら五稜郭へ。うす曇りの市内は京都より大分すずしい。啄木墓碑をバスの中より訪ね立待岬へと向う。ここでバスはUターンして函館山ドライブウェイと入つてゆく。

展望台からのながめは霧のためはつきり見る事が出来ず、記念写真も霧の晴れるのを待つて撮影する。

昼食の後準急“ポプラ”で小樽に行き、そこから鈍行で“濃霧の街”釧路へと向う。途中、大沼国定公園では車掌の名ガイドぶりに耳を傾ける。しかし、駒ヶ岳の美しい姿を望むことはできなかつた。

汽車が長万部に停るや否や売店にとびこんだが“ケガニ”は売切れ、ガツカリした面々……。北海道での目的の一つであつたケガニを食べそこねたのである。

汽車の中で一夜をあかした。4時すぎ目をさます。今日は北海道で皆既日食の観測できる日である。今日と云う日をのがせば我々が66才になるまで見る事ができないのである。汽車の窓より日の出を待つたが低くたれこめた雲は空をおおい私達を失望させた。京都より持参した“イブシガラス”がうらめしかつた。ケガニにつぎ2度目の失望である。